

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品回収の措置は、医薬品の製造販売業者の責任により行われるものであり、医薬品の販売を行う者は、回収の情報に注意を払う必要はない。
- b 医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、その役割を十分に発揮する。
- c 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。
- d 一般用医薬品は、相対的に医療用医薬品ほど作用が強くないので、保健衛生上のリスクに注意する必要はない。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問2 医薬品の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品は、その使用する量や使い方を守っている限り、副作用は発生しない。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の頻回購入を試みる不審な購入者には慎重に対処する必要がある。
- c 一般用医薬品には、習慣性のある成分は含まれていない。
- d 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。

下欄

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問3 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、市販後にも、医学・薬学の新たな知見、使用成績に基づき、その有効性、安全性の確認が行われる。
- b 医薬品は、必ずしも期待される薬効のみをもたらすとは限らず、副作用を生じる場合もある。
- c 殺虫剤、検査薬など、直接、人体に対して使用されない医薬品は、健康を害するおそれはない。
- d 薬事法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、医薬品に異物等の混入があってはならない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問4 医薬品の使用上の注意等において用いられるおおよその目安としての年齢区分について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

下欄

	乳児	幼児	小児
1	1歳未満	5歳未満	12歳未満
2	1歳未満	7歳未満	15歳未満
3	1歳未満	5歳未満	15歳未満
4	2歳未満	7歳未満	12歳未満
5	2歳未満	5歳未満	15歳未満

問5 医薬品の副作用に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2か所の(c)には、同一の字句が入ります。

WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、(a)のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の(b)反応」とされている。

我が国では、「(c)医薬品が適正な使用目的に従い適正に使用された場合においてもその(c)医薬品により人に発現する有害な反応」（独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項）を、医薬品の副作用と定義している。

下欄

	a	b	c
1	治療	有効かつ過剰な	許可
2	改善	有効かつ過剰な	医療用
3	改善	意図的な	一般用
4	診察	有害かつ意図しない	医療用
5	治療	有害かつ意図しない	許可

問6 医薬品の使用に関する次の記述について、適切であるものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 子供が熱を出したので、解熱薬をすぐ飲ませられるように子供の枕元に置いたまま、子供部屋を離れた。
- b 医療機関で抗インフルエンザ薬を処方されたが、症状が良くなったので、自己判断で服用をやめた。
- c 重大な副作用の兆候がでたため、その原因となった一般用医薬品の服用を中止し、医療機関を受診した。
- d 高齢者は、医薬品の取り違え、飲み忘れ等に注意が必要であるため、家族が服薬管理を行った。

下欄

1	(a 、 b)	2	(a 、 c)	3	(b 、 d)	4	(c 、 d)
---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------

問7 医薬品の副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 副作用は、薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）に大別される。
- b アレルギーには体質的・遺伝的な要素があるため、今まで一度もアレルギーを起こしたことがない場合は、アレルギーに対して注意をする必要はない。
- c 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- d アレルギーは、医薬品の有効成分により起こり、医薬品に含まれる添加物が原因となることはない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問8 「セルフメディケーション」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること。
- 2 治療法などについて、十分な説明を受けた上で、患者が正しく理解し納得して、同意すること。
- 3 1人の医師の意見だけで決めてしまわずに、別の医師の意見も聞いて患者が治療法などを決めること。
- 4 患者が医師から処方された薬を指示通り正しく、確実に服用し、注意事項を守ること。

問9 登録販売者の対応に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 小児は、錠剤を喉に詰まらせやすいので、粉碎した上で量を半分とし、水に溶かして飲ませるようアドバイスした。
- b 一般用医薬品の咳止めシロップを大量にまとめ買いしようとする客に購入の理由を尋ねた。
- c 一般用医薬品の瀉下剤を添付文書に書かれている成人の用法用量の最大量を使用しても効果がないとの相談を受けたので、それ以上用量を増やさず、医療機関を受診するようアドバイスした。
- d 一般用医薬品の総合感冒薬を用法用量どおりに1週間服用しても症状が改善しないとの相談を受けたので、引き続き1週間服用するようアドバイスした。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問10 妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているため、妊娠3ヵ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人では、医薬品以外からの摂取を含め、過剰摂取に特に留意すべき医薬品成分を1つ選びなさい。

- 1 塩酸チアミン 2 アスコルビン酸 3 酢酸レチノール
- 4 ニコチン酸 5 ビオチン

問11 医薬品の使用に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品と食品を一緒に摂取した場合に相互作用が起きることはないが、カフェインのように食品に含まれる成分の場合は、過剰摂取になることがある。
- 2 医薬品には、依存性のある成分を含むものもあり、薬物依存を生じることがある。一度、薬物依存が形成されると、そこから離脱することは容易ではない。
- 3 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがあるため、医薬品の服用中は、酒類は飲まないように注意する必要がある。
- 4 医療機関で治療を受けている場合では、服用している医薬品と一般用医薬品を併用しても問題ないかについては、治療を行っている医師等に確認する必要がある。

問 12 一般用医薬品の購入者に確認する事項として適切であるものを「正」、適切でないものを「誤」として、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- b その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。
- c 症状等がある場合、それはいつ頃からか、その原因や患部等の特定はなされているか。
- d その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるか。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問13 鶏卵にアレルギーのある人が避けるべき医薬品成分を1つ選びなさい。

- 1 リン酸コデイン 2 塩化リゾチーム 3 塩化カルニチン
4 塩酸ブロムヘキシン 5 塩酸ピリドキシン

問 14 ヒマシ油を主成分とする一般用医薬品を販売する際の説明事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 妊婦又は妊娠していると思われる女性では、流産や早産を誘発するおそれがあるので、使用を避ける。
b 授乳中にやむを得ず服用した時は、乳汁に移行し、乳児が下痢をするおそれがあるので、服用期間中の授乳を避ける。
c 急激で強い瀉下作用があるので、3歳未満の乳幼児では使用を避ける。
d 急激で強い瀉下作用があるので、小児の誤飲・誤食による中毒事故に使用できる。脂溶性物質の中毒の場合に有効である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 15 無水カフェインを主薬とする眠気防止薬の服用に際し、注意が必要として、服用しないこととされている基礎疾患の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 心臓病 b 糖尿病 c 胃潰瘍 d 前立腺肥大

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 16 小児、高齢者への医薬品の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 小児は大人と比べて身体の高さに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率は低いが、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、副作用を起こしやすい。
- b 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。
- c 乳幼児は、病気の状態が変わりやすく、早急な対処が必要であるため、医療機関に連れて行くよりも、乳幼児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品の服用を優先する。
- d 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 17 一般用医薬品の役割に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防
- b 生活の質の改善・向上
- c 衛生害虫の防除
- d 健康状態の自己検査

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	誤

問18 プラセボ効果に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から
選びなさい。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等が関与して生じると考えられている。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なもの（副作用）はない。
- d プラセボ効果は、必ず、測定可能な変化として現れるので、それを目的として医薬品を使用することもある。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問19 医薬品の副作用等にかかる訴訟に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a CJD訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介して、細菌の一種であるプリオンに感染し、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- c サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- d スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたスモン製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 20 サリドマイドに関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

なお、2つの (b)、(c) には同じ字句が入ります。

サリドマイドの (a) 作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、一方の異性体 (b) のみが有する作用とされ、もう一方の異性体 (c) にはなく、一方、副作用は (c) によるものとされた。サリドマイドが摂取されると、光学異性体は、体内で相互に転換するため、(b) のサリドマイドを分離して製剤化しても、催奇形性は避けられない。

当時は、光学異性体の違いによって有効性や安全性に差が生じることは明確でなかったが、その後、新たな有効成分を含む医薬品の承認にあたっては、光学異性体の有無や有効性、安全性等への影響についても確認、評価がなされるようになった。

下欄

	a	b	c
1	鎮静	R体	S体
2	整腸	R体	S体
3	鎮静	S体	R体
4	鎮痛	S体	R体
5	整腸	S体	R体

主な医薬品とその作用

問21 下表の成分を含む鼻炎用内服薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1日量 6カプセル中

リゾチーム塩酸塩（塩化リゾチーム） 60mg（力価）

グリチルリチン酸 60mg

d-クロルフェニラミンマレイン酸塩（マレイン酸クロルフェニラミン） 4mg

ベラドンナ総アルカロイド 0.4mg

塩酸プソイドエフェドリン（プソイドエフェドリン塩酸塩） 180mg

無水カフェイン 120mg

- a 塩酸プソイドエフェドリンは、塩酸フェニレフリンに比べて中枢神経系に対する作用が弱い。
- b 甲状腺機能障害の診断を受けた人は、使用を避けること。
- c まれに重篤な副作用として皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症を生じることがある。
- d パーキンソン病の治療のためモノアミン酸化酵素阻害剤である塩酸セレギリンの処方を使用している人は、使用を避ける必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問22 滋養強壯保健薬に含まれる成分に関する次の記述について、誤っているものを
1つ選びなさい。

- 1 ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。ビタミンD主薬製剤は、骨歯の発育不良、くる病の予防等に用いられる。
- 2 ビタミンEは、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。 ビタミンE主薬製剤は、末梢血管障害による肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和等に用いられる。
- 3 ビタミンB 1は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。また、腸管運動を促進する働きもある。ビタミンB 1主薬製剤は、神経痛、筋肉痛・関節痛、手足のしびれ、便秘、眼精疲労、脚気の症状の緩和等に用いられる。
- 4 ビタミンCは、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。 ビタミンC主薬製剤は、口内炎、舌炎、湿疹、皮膚炎、かぶれ、ただれ、にきび、肌荒れ、赤鼻、目の充血、目の痒みの症状の緩和等に用いられる。

問23 胃腸薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- | | | |
|---------------|---|------------|
| a ジメチルポリシロキサン | — | 胃粘膜保護・修復成分 |
| b プロザイム | — | 消化成分 |
| c アルジオキサ | — | 消泡成分 |
| d 合成ヒドロタルサイト | — | 制酸成分 |

下欄

- 1 (a、b) 2 (b、d) 3 (a、c) 4 (c、d)

問24 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選
びなさい。

- a ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示すが、アドレナリン作動成分が配
合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作
用を低下させるおそれがある。
- b バージャー病の診断を受けた人は、使用している治療薬の効果に影響を生じた
り、症状を悪化させる可能性があるため、禁煙補助薬を使用する前にその適否に
つき、治療を行っている医師等に相談することが望ましい。
- c 禁煙補助剤を用いるニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換
えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、1年以上にわたって使
用して最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- d 禁煙補助剤（咀嚼剤）は、ゆっくりと断続的に噛むことにより口腔内でニコチ
ンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。

下欄	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問25 瀉下薬に含まれる成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選び
なさい。

- 1 マルツエキスは、主成分の麦芽糖が腸内細菌によって分解して生じるガスによ
って便通を促すとされ、主に乳幼児の便秘に用いられる。
- 2 カルメロースナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便
のかさを増やすとともに糞便を柔らかくする。
- 3 ビサコジルの腸溶製剤は、服用前後1時間以内は制酸成分を含む胃腸薬の服用
や牛乳の摂取を避けること。
- 4 ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸で分解されて、大腸への刺激作用を
示す。

問26 かぜ薬において鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的とする成分に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

(a) は、いずれも蛋白質分解酵素で、体内で産生される炎症物質（起炎性ポリペプチド）を分解する作用を示す。また、炎症を生じた組織では毛細血管やリンパ管に(b)に類似した物質が沈着して炎症浸出物が貯留しやすくなるが、それら沈着物質を分解して浸出物の排出を促し、炎症による腫れを和らげると考えられている。

下欄	a	b
1	トラネキサム酸、ブロメライン	フィブリン
2	トラネキサム酸、ブロメライン	プラスミン
3	ブロメライン、セミアルカリプロティナーゼ	フィブリン
4	ブロメライン、セミアルカリプロティナーゼ	プラスミン
5	セミアルカリプロティナーゼ、トラネキサム酸	プラスミン

問27 婦人用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ソウジュツ(キク科のホソバオケラ又はシナオケラの根茎)は、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b カノコソウ(オミナエシ科のカノコソウの根茎及び根)は、胃腸症状に対する効果を期待して用いられる。
- c サフラン(アヤメ科のサフランの柱頭)は、鎮静、鎮痛、女性の滞っている月経を促す作用を期待して用いられる。
- d シャクヤク(ボタン科のシャクヤク又はその近縁植物の根)は、鎮痛鎮痙及び鎮静作用を示し、内臓の痛みにも用いられる。

下欄	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問28 下表の成分を含む外用痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

100 g 中
リドカイン 3.0g
ヒドロコルチゾン酢酸エステル（酢酸ヒドロコルチゾン） 0.5g
クロルヘキシジン塩酸塩（塩酸クロルヘキシジン） 0.5g
ジフェンヒドラミン 0.5g
アラントイン 1.0g
トコフェロール酢酸エステル 1.0g

- a リドカインは、皮膚や粘膜などの局所周辺の知覚神経に作用して刺激の伝達を不可逆的に遮断し、痔に伴う痛み、痒みを和らげる。
- b 酢酸ヒドロコルチゾンは、痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として用いられる。
- c アラントインは、肛門部の血管収縮作用による止血効果を期待して配合されている。
- d 塩酸クロルヘキシジンは、真菌類、結核菌、ウイルスに対して殺菌消毒作用がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	誤	正

問29 みずむし・たむしの治療薬に含まれる抗真菌成分でないものを1つ選びなさい。

- 1 スルファジアジン
- 2 硝酸オキシコナゾール
- 3 ピロールニトリン
- 4 シクロピロクスオラミン
- 5 塩酸アモロルフィン

問30 一般用検査薬を用いる検査等に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事等の影響によって中性～弱酸性に傾いた場合や、医薬品による影響によって尿検査では正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 尿糖値に異常を生じる原因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多い。腎性糖尿、妊娠糖尿も必ず高血糖を伴う。
- c 胃癌や膵癌等の場合は、妊娠していなくてもヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が分泌されて妊娠検査結果が陽性となることがある。
- d 妊娠検査薬は、高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問31 鎮うん薬（乗物酔い防止薬）の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ジプロフィリン — 抗ヒスタミン成分
- b テオクル酸プロメタジン — 中枢神経系を興奮させる成分
- c アリルイソプロピルアセチル尿素 — 鎮静成分
- d アミノ安息香酸エチル — 局所麻酔成分

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問32 きず口等の殺菌消毒薬に関する次の記述について、記述と成分の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ヨウ素及びヨウ化カリウムをエタノールに溶解させたもので、皮膚刺激性が強く、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- b ヨウ素をポリビニルピロリドンと呼ばれる担体に結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- c 連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。有機水銀の一種であるが、皮膚浸透性が低いので、通常の使用において水銀中毒を生じることはない。
- d 陽性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌に対する殺菌消毒作用を示す。また、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が低下するので、石鹼で洗浄した後に使用する場合には、石鹼を十分に洗い流す必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	ポビドンヨード	ヨードチンキ	塩化ベンゼトニウム	マーキュロクロム
2	ヨードチンキ	ポビドンヨード	マーキュロクロム	レゾルシン
3	ポビドンヨード	ヨードチンキ	塩化ベンゼトニウム	レゾルシン
4	ヨードチンキ	ポビドンヨード	マーキュロクロム	塩化ベンゼトニウム

問33 解熱鎮痛薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ケイヒ — 発汗を促す
- b ボウイ — 骨格筋の緊張を和らげる
- c コンドロイチン硫酸ナトリウム — 関節痛の改善を促す
- d メトカルバモール — 胃腸障害を低減させる

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問34 下表は、ある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

1 日量	3 包中
セトラキサート塩酸塩（塩酸セトラキサート）	600mg
ロートエキス	30mg
沈降炭酸カルシウム	1,200mg
水酸化マグネシウム	300mg

この胃腸薬を使用するにあたって注意すべき事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 脳血栓のある人では、治療を行っている医師等に相談することが望ましい。
- b 胃腸鎮痛鎮痙薬との併用を避けること。
- c 便秘や下痢の症状があらわれることがある。
- d 母乳を与えている女性では、母乳が出にくくなることもある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	正

問35 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群という、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる様々な症状の総称で、通常は数日～1週間程度で自然寛解する。
- 2 アセトアミノフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられており、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起りやすいとされる。
- 3 無水カフェインは、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で配合されているが、カフェイン類が配合されているからといって抗ヒスタミン成分や鎮静成分の作用による眠気が解消されるわけではない。
- 4 かぜの原因となるウイルスは、季節や時期などによって種類は異なるが、いずれも上気道の粘膜から感染し、それらの部位に急性の炎症を引き起こす。

問36 外皮用薬のうち痒み、腫れ、痛み等を抑える配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 酢酸プレドニゾロンは、末梢組織（患部局所）における炎症を引き起こす物質の産生を抑える作用があるが、好ましくない作用として末梢組織の免疫機能を低下させる作用がある。
- b ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL中0.025mgを超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- c イブプロフェンピコノールは、イブプロフェンの誘導体であり、筋肉痛、関節痛、肩こりに伴う肩の痛み、腰痛、腱鞘炎、肘の痛み、打撲、捻挫に用いられる。
- d ウフェナマートは、炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられ、湿疹、皮膚炎、かぶれ、あせも等による皮膚症状の緩和を目的として用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問37 駆虫薬に関する次の記述について、記述と成分の正しい組み合わせを下欄から
 選びなさい。

- a 回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- b 回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d 蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。

下欄	a	b	c	d
1	サントニン	カイニン酸	リン酸ピペラジン	パモ酸ピルビニウム
2	サントニン	カイニン酸	パモ酸ピルビニウム	リン酸ピペラジン
3	カイニン酸	サントニン	リン酸ピペラジン	パモ酸ピルビニウム
4	カイニン酸	サントニン	パモ酸ピルビニウム	リン酸ピペラジン

問38 アレルギーに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2つの(b)、(c)には同じ字句が入ります。

アレルギーが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した(a)によって(b)が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である(c)等の物質が遊離する。(b)から遊離した(c)は、周囲の器官や組織の表面に分布する特定の蛋白質と反応することで、血管拡張、血管透過性亢進等の作用を示す。

下欄	a	b	c
1	抗体	肥満細胞	ヒスタミン
2	抗原	貪食細胞	ヒスタミン
3	抗原	貪食細胞	アドレナリン
4	抗体	肥満細胞	アドレナリン
5	抗原	肥満細胞	ヒスタミン

問39 鎮咳去痰薬の生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a キョウニンハ、バラ科のアンズの子をいた生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示す。
- b セキサンハ、ユリ科のジャノヒゲ又はその同属植物の根の膨大部をいた生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壯等の作用を期待して用いられる。
- c シャゼンソウハ、オオバコ科のオオバコの花期の全草をいた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d セネガハ、ヒメハギ科のイトヒメハギの根をいた生薬で、この生薬成分の摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問40 下表の成分を含む鎮うん薬（乗物酔い防止薬）に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

1回量1錠中

ジフェニドール塩酸塩（塩酸ジフェニドール） 16.6mg

スコポラミン臭化水素酸塩水和物（臭化水素酸スコポラミン） 0.16mg

無水カフェイン 30.0mg

ピリドキシン塩酸塩（ビタミンB6） 5.0mg

- a 塩酸ジフェニドールは、内耳にある蝸牛と脳を結ぶ神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b ビタミン成分は、吐き気の防止にも働くことを期待して補助的に配合されている。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、消化管からよく吸収され、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しやすく、肝臓での代謝が遅いため抗ヒスタミン成分に比べ作用の持続時間は長い。
- d 副作用として排尿困難、眠気、散瞳による異常な眩しさのほか、浮動感や不安定感が現れることがある。

下欄

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (c、d) 4 (b、d)

問41 サリチル酸系解熱鎮痛成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a サリチルアミドは、8歳の小児で水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっているときには使用を避ける必要がある。
- b アスピリンは、一般用医薬品では10歳の小児に対して、いかなる場合でも使用しないこととなっている。
- c サザピリンは、痛みの発生を抑える働きが中心である他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みの伝わりを抑える働きが優位であるとされており、そうした作用の違いによる効果を期待して、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多い。
- d ライ症候群の発生は、まれであるが死亡率が高く、生存の場合も脳に重い障害を残すとされ、また、その発生とサリチル酸系解熱鎮痛成分との関連性が示された報告もある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問42 下表の成分を含む止瀉薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

1 日量	3 包中
タンニン酸アルブミン	1.71g
次硝酸ビスマス	1.14g
オウバク末	1.71g
ロートエキス散	0.57g

- a タンニン酸アルブミンには、収斂作用はない。
- b 長期連用した場合に不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等が現れることがあり、1週間以上継続して使用しないこと。
- c 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の診断を受けた人では、使用する前にその適否について治療を行っている医師等に相談することが望ましい。
- d 一般的に口渇の副作用が現れることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問43 貧血用薬成分に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 銅は、ヘモグロビンの産生過程で鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- 2 マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- 3 コバルトは、糖質・脂質・蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- 4 鉄分の吸収は、空腹時のほうが低いとされるので、食後に服用することが望ましい。

問 44 強心薬に含まれる配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a ロクジョウは、シカ科のシベリアジカ等の雄の腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- b ジンコウは、ジンチョウゲ科のジンコウの黒褐色の樹脂を含む木材を乾燥加工した生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。
- d ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問45 婦人用薬に関する次の記述に該当する漢方処方製剤を下欄から1つ選びなさい。

比較的体力があり、のぼせて便秘しがちな人における月経不順、月経困難症、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。構成生薬としてダイオウを含むため、授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避ける必要がある。

下欄

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1 五積散 | 2 柴胡桂枝乾姜湯 | 3 当帰芍薬散 |
| 4 桃核承気湯 | 5 四物湯 | |

問 46 眠気防止薬に含まれるカフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 乳児でのカフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、肝臓が未発達のため通常の成人と比べて短い。
- b カフェインは、胃液の分泌を亢進させる作用があり、副作用として食欲不振、悪心、嘔吐が現れることがある。
- c カフェインは、腎臓での水分の再吸収を抑制するとともに、膀胱括約筋を弛緩させる働きがある。
- d 眠気防止薬におけるカフェインの1日摂取量は200mgが上限とされており、過量に摂取されると、中枢神経系や循環器系への作用が強く現れるおそれがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問47 歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a チモール — 細菌の繁殖を抑える
- b カミツレ — 炎症を抑える
- c 銅クロロフィリンナトリウム — 出血を抑える
- d サンシシ — 歯周組織の修復を促す

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問48 鎮咳去痰薬に含まれる成分や漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a リン酸コデインは、定められた用法・用量の範囲内で乳児への影響は不明であるが、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- b 臭化水素酸デキストロメトルファン、リン酸ジメモルファンは、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、延髄の咳嗽中枢に作用し、長期連用や大量摂取により倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがある。
- c 甘草湯は、咳や咽喉痛に用いられるが、1ヶ月程度の服用が目安とされ、それ以上の長期連用は避ける必要がある。
- d 塩酸クロペラスチンは、副交感神経を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

問49 下表の成分を含む眼科用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

スルファメトキサゾールナトリウム	4.0%
グリチルリチン酸二カリウム	0.25%
コンドロイチン硫酸ナトリウム	0.25%
タウリン	0.1%

- a 全身性の副作用としては、皮膚に発疹、発赤、痒み等が現れることがある。
- b ブドウ球菌や連鎖球菌による結膜炎やものもらいに対する効果はないので、3～4日使用しても症状の改善がみられない場合には、眼科専門医の診療を受けることが望ましい。
- c 点眼後は、数秒間まぶたを閉じて薬液を結膜囊内に行き渡らせ、その際、目頭を軽く押さえるとよいとされる。
- d コンドロイチン硫酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。

下欄

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (c、d) 4 (b、d)

問50 胃腸に作用する薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩化ベルベリンは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として配合されている場合があり、同様の作用を期待して、カオリンや薬用炭などの生薬成分も用いられる。
- b ダイオウは、大腸刺激性瀉下成分として用いられ、通常用量では瀉下作用が期待されるが、大量に摂取した場合には逆に止瀉作用が現れることがある。
- c ラクトミンは、生体内に存在する有機酸の一種であり、胃液分泌を促す、胃壁の循環血流を増す等の作用があるとされ、胃の働きの低下や食欲不振の改善を期待して、滋養強壮保健薬に用いられる。
- d 硫酸ナトリウムは、血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため、心臓病の診断を受けた人は、使用する前に医師等に相談することが望ましい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問51 外用痔疾用薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

血管収縮作用による止血効果を期待して (a) が配合された坐剤及び注入軟膏については、(b) に対する刺激作用によって心臓血管系や肝臓でのエネルギー代謝等にも影響を生じることが考えられ、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがあり、使用する前に治療を行っている医師等に相談することが望ましい。

また、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、(c) が配合されていることがある。

下欄	a	b	c
1	塩酸メチルエフェドリン	交感神経系	酸化亜鉛
2	塩酸メチルエフェドリン	副交感神経系	カルバゾクロム
3	塩酸ジブカイン	交感神経系	酸化亜鉛
4	塩酸ジブカイン	副交感神経系	酸化マグネシウム
5	塩酸ジブカイン	中枢神経系	カルバゾクロム

問52 鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、手足の冷えを感じ、下肢が冷えると下肢又は下腹部が痛くなりやすい人における、腰痛、下腹部痛、頭痛、しもやけに適すとされるが、胃腸の弱い人では不向きとされる。
- 2 芍薬甘草湯は、下肢の痙攣性疼痛(いわゆる「足がつる」症状やこむらがえり)、急な腹痛や胃痙攣の痛み等のような、急激に起こる筋肉の痙攣を伴う疼痛に適すとされるが、症状があるときのみの服用にとどめ、連用を避けることとされている。
- 3 疎経活血湯は、関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、消化器系の副作用である食欲不振、胃部不快感等が現れやすい等、不向きとされる。
- 4 釣藤散は、みぞおちが膨満して手足が冷えやすい人における、頭痛及び頭痛に伴う吐き気、しゃっくりに適すとされる。

問53 循環器用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a イノシトールヘキサニコチネートは、代謝されて遊離したニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- b ヘプロニカートは、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける。
- c ユビデカレノンは、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し超えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- d コウカは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問54 アレルギー用薬、鼻炎用内服薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、2つの(a)には同じ字句が入ります。

アレルギー用薬は、じん麻疹や湿疹、かぶれ及びそれらに伴う皮膚の痒み又は鼻炎に用いられる内服薬の総称で、(a)成分を主体として配合されている。

鼻炎用内服薬は、(a)成分に、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状の緩和を目的として、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる(b)成分や鼻汁分泌やくしゃみを抑える(c)成分等が組み合わせて配合されている。

下欄

	a	b	c
1	抗コリン	アドレナリン作動	抗ヒスタミン
2	抗ヒスタミン	抗コリン	アドレナリン作動
3	抗コリン	抗ヒスタミン	アドレナリン作動
4	抗ヒスタミン	アドレナリン作動	抗コリン
5	アドレナリン作動	抗ヒスタミン	抗コリン

問55 下表の成分を含む鼻炎用点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

100mL 中
クロモグリク酸ナトリウム 1g
クロルフェニラミンマレイン酸塩（マレイン酸クロルフェニラミン） 0.25g
ナファゾリン塩酸塩（塩酸ナファゾリン） 0.025g

- a 過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招いて、鼻づまりがひどくなりやすい。
- b 3日間使用して症状の改善がみられないような場合には、アレルギー以外の原因による可能性が考えられる。
- c 局所に適用されるものであり、成分が鼻粘膜を通っている血管から吸収されても全身的な影響をうけることはない。
- d まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー様症状を生じることがある。その他の副作用として鼻出血や頭痛が現れることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問56 コレステロールに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

細胞の構成成分であるコレステロールは、(a)や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質でもある。

コレステロールは水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿蛋白質と結合したリポ蛋白質となって存在する。(b)リポ蛋白質は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運び、一方、(c)リポ蛋白質は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポ蛋白質である。

血漿中のリポ蛋白質のバランスの乱れにより、コレステロールの運搬が(d)側に偏ると、コレステロールの蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。

下欄

	a	b	c	d
1	クエン酸	低密度	高密度	肝臓
2	クエン酸	高密度	低密度	肝臓
3	胆汁酸	高密度	低密度	末梢組織
4	胆汁酸	低密度	高密度	末梢組織
5	胆汁酸	低密度	高密度	肝臓

問57 下表は、ある胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれている成分の一覧である。

1 日量	6 錠中
臭化メチルペナクチジウム	30mg
塩酸パパペリン	90mg
デヒドロコール酸	150mg

この胃腸鎮痛鎮痙薬を使用にするにあたって注意すべき事項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 散瞳による目のかすみや異常な眩しさ、顔のほてりなどが現れることがある。
- b 口渇や便秘の副作用が現れることがある。
- c 心臓病の診断を受けた人は、治療を行っている医師等に相談することが望ましい。
- d メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあり、6歳未満に使用されることのないよう注意すること。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問58 殺虫剤に用いられる成分とその種類について正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

	成分名		種 類
a	フェンチオン	—	ピレスロイド系殺虫成分
b	フェノトリン	—	有機リン系殺虫成分
c	ピリプロキシフェン	—	昆虫成長阻害成分
d	プロポクスル	—	カーバメイト系殺虫成分

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問59 滋養強壯保健薬の配合成分と配合目的の正しいものの組み合わせを下欄から選
びなさい。

- | | | | |
|---|--------------|---|---------------------|
| a | ヘスペリジン | — | 乳酸の分解を促す |
| b | タウリン | — | 肝臓機能を改善する |
| c | アスパラギン酸ナトリウム | — | ビタミンCの吸収を助ける |
| d | システイン | — | アルコールを分解する酵素の働きを助ける |

下欄

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問60 生薬成分であるカンゾウに関する次の記述について、()の中に入れるべき
字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。なお、3つの(a)、2つ
の(b)は同じ字句が入ります。

カンゾウは、マメ科のカンゾウ又はその同属植物の根及び根茎で、(a)を含む生薬成分である。(a)による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌を促す等の作用も期待される。カンゾウを大量に摂取すると(a)の大量摂取につながり、(b)を起こすおそれがある。高齢者、むくみのある人、心臓病、腎臓病又は高血圧の診断を受けた人では、(b)を生じるリスクが高いとされており、1日最大服用量がカンゾウ(原生薬換算)として(c)以上となる製品については、治療を行っている医師等に相談する等、慎重な使用がなされる必要がある。

下欄

	a	b	c
1	グリチルリチン酸	メトヘモグロビン血症	1 g
2	グリチルリチン酸	メトヘモグロビン血症	2 g
3	グリチルリチン酸	偽アルドステロン症	1 g
4	フマル酸クレマスチン	メトヘモグロビン血症	5 g
5	フマル酸クレマスチン	偽アルドステロン症	5 g